

# 2022年3月期 決算説明会

2022年5月10日



# I. 決算

1. 決算のポイント
2. 当期の業績
3. 次期の業績予想

# 2022年3月期 決算のポイント

1. 当期の業績は、自動車・産業車両の市場回復を捉え、前期比で増収・増益

2. 当期の配当金は、前期から20円増加の170円  
次期の配当金は、当期から10円増加の180円を計画

3. 次期の業績は、増収・増益を計画

# 業績<実績>

(単位:億円)

	21/3期	22/3期	増減	
				率
売上高	21,183	27,051	5,868	27.7%
営業利益	1,181	1,590	409	34.6%
税引前利益	1,840	2,461	621	33.8%
純利益	1,367	1,803	436	31.9%
1株当たり 純利益	440円28銭	580円73銭	140円45銭	-
1株当たり 配当金 (うち期末)	150円 (80円)	170円 (90円)	20円 (10円)	- (-)
配当性向	34.1%	29.3%	-	-

U S \$	106円	112円	6円	-
ユ ー ロ	124円	131円	7円	-

・調達部品の供給不足や自動車メーカーでの減産、原材料や物流コストの上昇などがあったものの、エンジン、コンプレッサー、フォークリフトの販売台数増などにより増収・増益

# セグメント情報<実績>

上段:売上高 下段〔 〕:営業利益

(単位:億円)

		21/3期	22/3期	増減	率
自動車	車両	883	834	▲49	▲5.6%
	エンジン	1,399	2,676	1,277	91.2%
	カーエアコン用コンプレッサー	3,016	3,561	545	18.1%
	電子機器ほか	616	855	239	38.6%
	計	5,916 〔47〕	7,928 〔330〕	2,012 〔283〕	34.0%
産業車両	14,314 〔1,099〕	17,894 〔1,136〕	3,580 〔37〕	25.0%	
繊維機械	408 〔▲11〕	692 〔55〕	284 〔66〕	69.4%	
その他	543 〔44〕	537 〔71〕	▲6 〔27〕	▲1.1%	
合計	21,183 〔1,181〕	27,051 〔1,590〕	5,868 〔409〕	27.7%	

## 販売台数

(単位:千台)

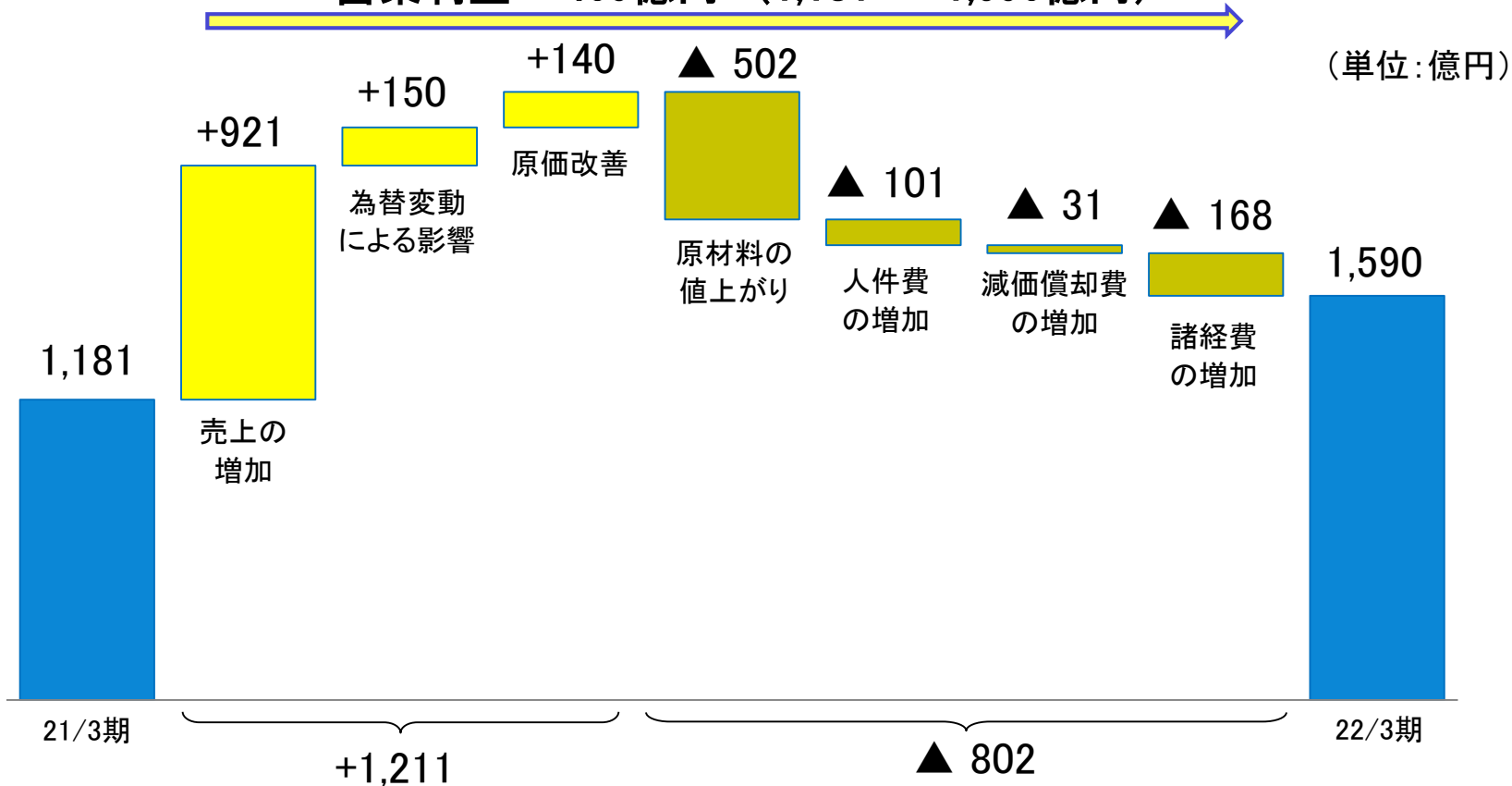
		21/3期	22/3期	増減
車両 (RAV4)		323	308	▲15
ディーゼル ガソリン		362	430	68
		403	374	▲29
エンジン計		765	804	39
カーエアコン用 コンプレッサー	万台	2,751	2,875	万台 124
産業車両		250	282	32
エアジェット機		4.7	7.3	2.6

- 車両 : RAV4が、国内、海外向けともに減少し、売上は減少
- エンジン : GD型ディーゼルエンジンの増加などにより、売上は増加
- コンプレッサー : 北米などで増加したことにより、売上は増加
- 産業車両 : フォークリフト、物流ソリューションとも好調に推移し、増収・増益

# 営業利益の増減要因 <実績>

21/3期通期実績と22/3期通期実績の比較

営業利益 +409億円 (1,181 → 1,590億円)



- ・原材料や人件費、物流コストなどを含む諸経費の増加があったものの、主に売上の増加により増益

# 業績<実績>

(単位:億円)

	21/3期	22/3期	増減	
				率
設備投資	1,133	1,348	215	19.0%
減価償却費	910	941	31	3.4%

- ・設備投資は、コンプレッサーや、電池を含む電子機器ほか、産業車両などが増加したことにより、全体では増加

# 業績＜期末実績＞

(単位:億円)

	21/3期 期末	22/3期 期末	増減	
				率
資産合計	65,039	76,271	11,232	17.3%
資本合計	33,225	40,219	6,994	21.1%
1株当たり親会社 所有者帰属持分	10,422円64銭	12,653円04銭	2,230円40銭	—
親会社所有者 帰属持分比率	49.8%	51.5%	—	—
連結子会社数	256社	258社	2社	—

・資産合計は、投資有価証券の時価評価額が増加したことなどにより、増加



# 業績＜次期予想＞

(単位:億円)

	22/3期	23/3期	増減	
				率
売上高	27,051	31,000	3,949	14.6%
営業利益	1,590	1,700	110	6.9%
税引前利益	2,461	2,500	39	1.6%
純利益	1,803	1,850	47	2.6%
1株当たり 純利益	580円73銭	595円85銭	15円12銭	-
1株当たり 配当金 (うち期末)	170円 (90円)	180円 (90円)	10円 (-)	- -
配当性向	29.3%	30.2%	-	-
U S \$	112円	120円	8円	-
ユ ー ー 口	131円	130円	▲1円	-

# セグメント情報<次期予想>

上段:売上高 下段[ ]:営業利益

(単位:億円)

		22/3期	23/3期	増減	
					率
自動車	車両	834	900	66	7.8%
	エンジン	2,676	3,150	474	17.7%
	カーエアコン用コンプレッサー	3,561	4,230	669	18.8%
	電子機器ほか	855	1,270	415	48.5%
	計	7,928 [330]	9,550	1,622	20.5%
産業車両	17,894 [1,136]	20,120	2,226	12.4%	
繊維機械	692 [55]	680	▲12	▲1.8%	
その他	537 [71]	650	113	21.0%	
合計	27,051 [1,590]	31,000 [1,700]	3,949 [110]	14.6%	

## 販売台数

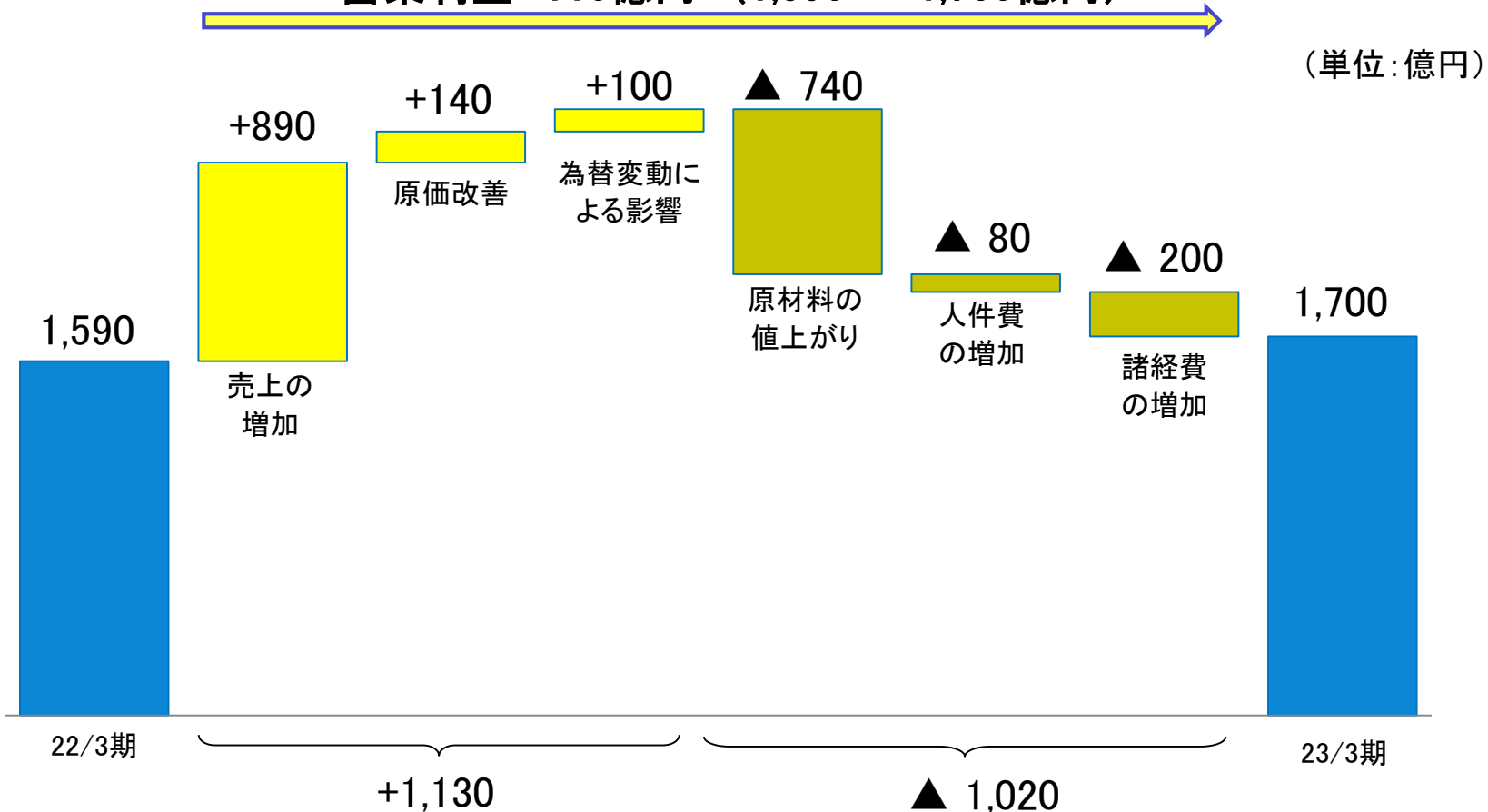
(単位:千台)

		22/3期	23/3期	増減
ディーゼル ガソリン	ディーゼル	430	452	22
	ガソリン	374	484	110
エンジン計		804	936	132
カーエアコン用 コンプレッサー	万台	2,875	3,100	万台 225
産業車両		282	349	67
エアジェット 織機		7.3	6.0	▲1.3

# 営業利益の増減要因 <次期予想>

22/3期通期実績と23/3期通期予想の比較

営業利益 110億円 (1,590 → 1,700億円)



# 業績＜次期予想＞

(単位:億円)

	22/3期	23/3期	増減	
				率
設備投資	1,348	1,500	152	11.2%
減価償却費	941	940	▲1	▲0.2%

## Ⅱ. 事業の取り組み

産業車両

自動車関連

### 1. 米国でのフォークリフト一部機種出荷停止の件

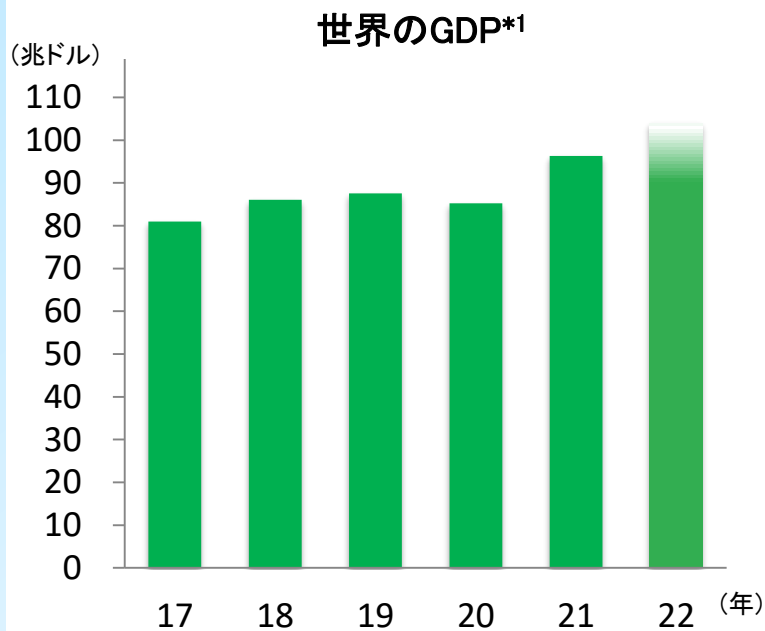
- 米国工場で生産するエンジン式フォークリフトの一部機種
- 搭載エンジンに対する米国環境当局の認証が取得できておらず21年1月から出荷停止、6月から生産停止

- ・ 認証に必要な申請作業は順調に進めており、認証取得に向けて当局と調整中
- ・ 当局へ誠実に対応し、出荷再開をめざす
- ・ 協議の進捗など、開示すべき事項が発生した場合、速やかに開示

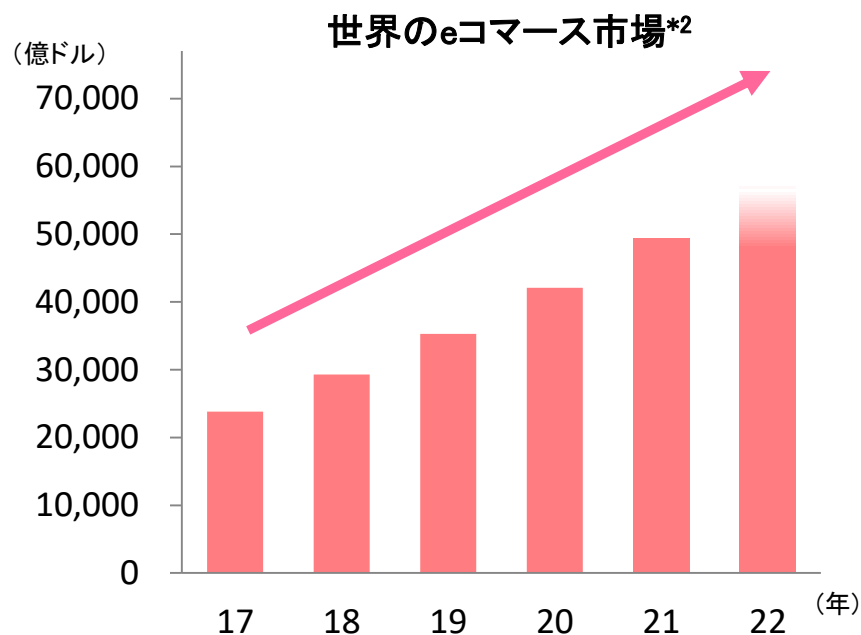
# 産業車両

## 2. 事業を取り巻く環境

- ・コロナ禍からの世界的な**経済活動再開**に伴う**需要の回復**
- ・**eコマース市場拡大**により**新規需要**が増加するも、**地政学リスク**や**インフレ懸念**の拡大などにより**高まる不透明感**
- ・先進国の労働力不足、新興国の人件費上昇、ソーシャルディスタンスの定着などもあり、**物流の機械化・自動化**のニーズは一層拡大



\*1: IMF, World Economic Outlook, April 2022



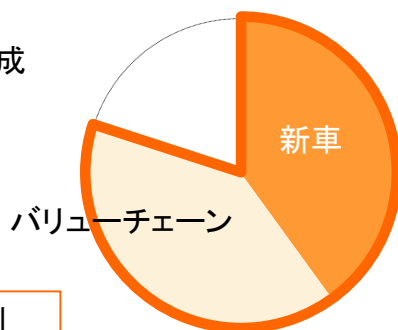
\*2: 経済産業省「令和元年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業(電子商取引に関する市場調査)報告書(令和2年)」をもとに当社作成

# 産業車両

## 3. 販売の状況(1/2)

### フォークリフト

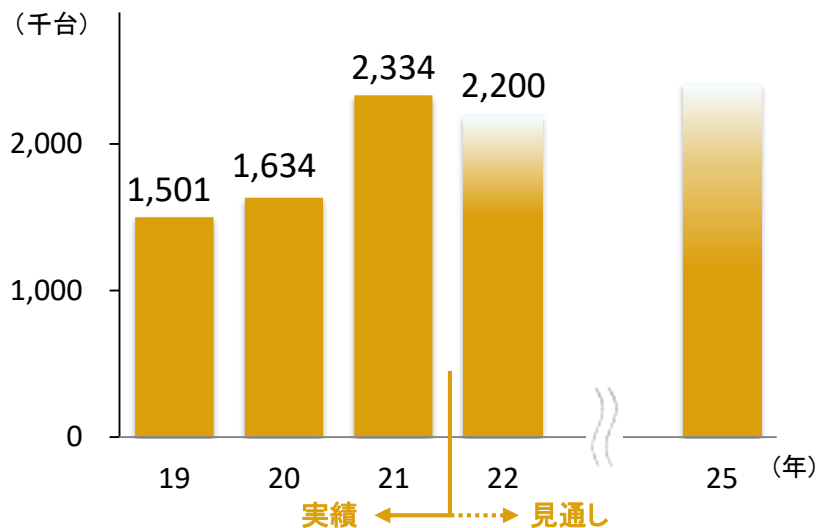
売上高構成



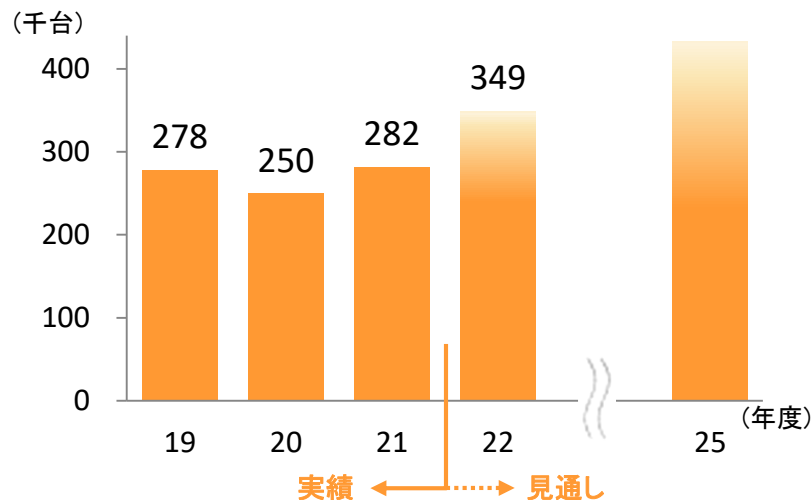
約8割

- ・21年の受注市場は、コロナ影響からのペントアップデマンドもあり、初めて**200万台を突破**
- ・22年は急増反動で受注は一服するも、以降**緩やかな成長**を見込む
- ・底堅い需要により、フォークリフト販売台数も**堅調に伸長**

### 受注市場台数



### フォークリフトの当社販売台数





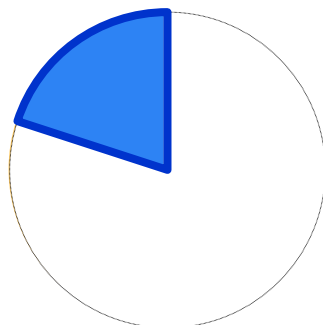
# 産業車両

## 3. 販売の状況(2/2)

### 物流ソリューション

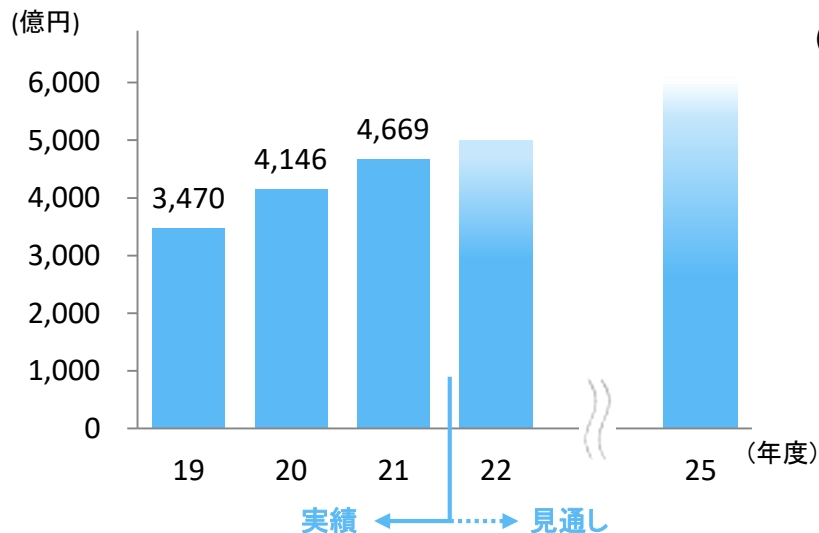
売上高構成

約2割

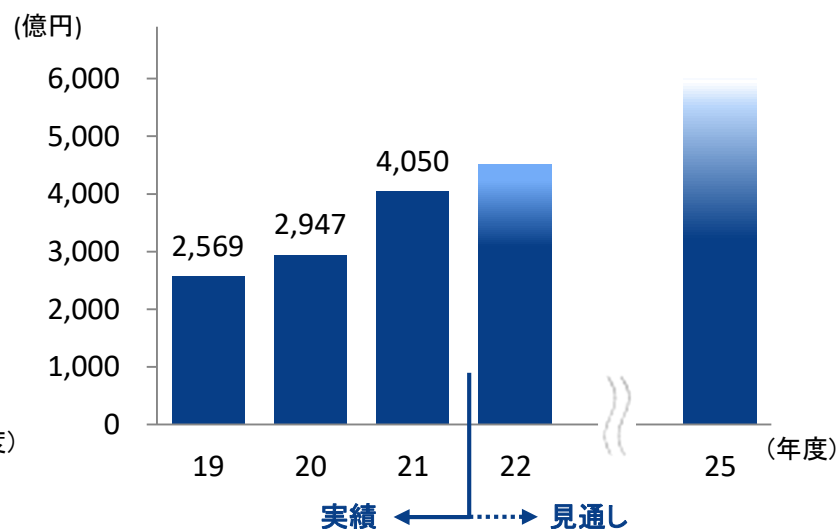


- ・自動化・省人化ニーズ拡大により受注は堅調
- ・小売・流通・eコマース、食品向けなどを中心に今後も拡大が見込まれ、売上高も堅調に伸長

### 物流ソリューションの受注高



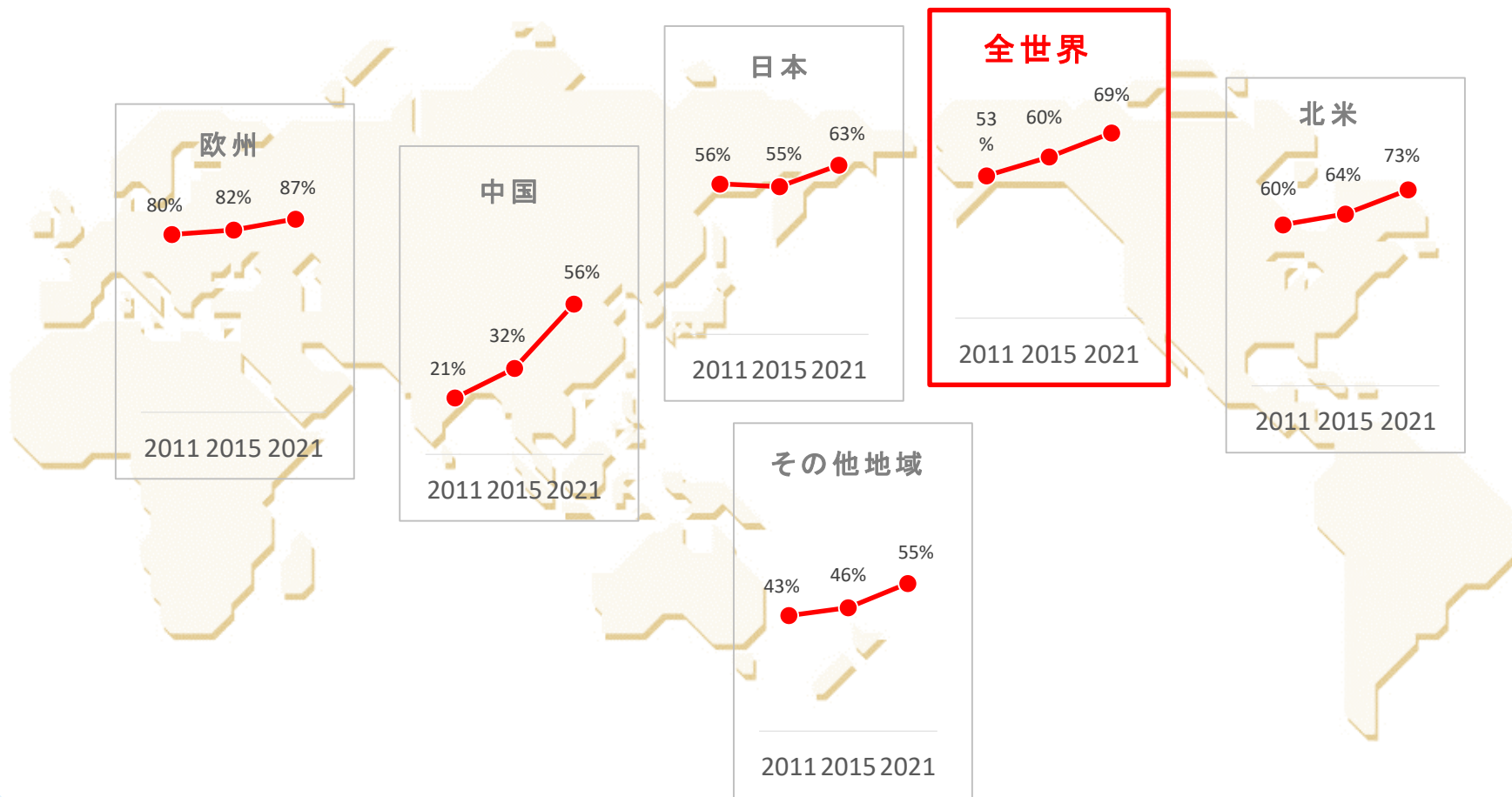
### 物流ソリューションの売上高



# 産業車両

## 4. 電動化の取り組み(1/3)

- ・フォークリフト市場の電動車比率は**各地域で伸長**
- ・2021年の**グローバル電動車比率は約70%**まで上昇



### 4. 電動化の取り組み(2/3)

#### ■カーボンニュートラルに向けて電動車ラインナップを拡充

- ・充電時間短縮やメンテナンスフリーなどの特性を持つリチウムイオン電池搭載車のラインナップを一層拡充
- ・急速充電に対応する高出力電動システムの開発
- ・エンジン代替高性能大型電動車・大型FCフォークリフトの開発・導入



## 4. 電動化の取り組み(3/3)

### ■ 新型電動トーイングトラクター

- ・ **高効率モーター**および**ドライブユニット**を搭載することで、けん引力・走行速度・登坂能力など**エンジン車と同等**の走行性能を実現
- ・ **大容量バッテリー**の採用により**長時間の連続稼働**が可能



電動トーイングトラクター (3TE25)

### ■ 新型FCフォークリフト

- ・ **第2世代MIRAIセル**を搭載
- ・ システムの簡素化などにより**FCシステムコストを半減**
- ・ 燃料電池の**寿命が約2倍**

22年度市場投入をめざし開発中



新型FCフォークリフト

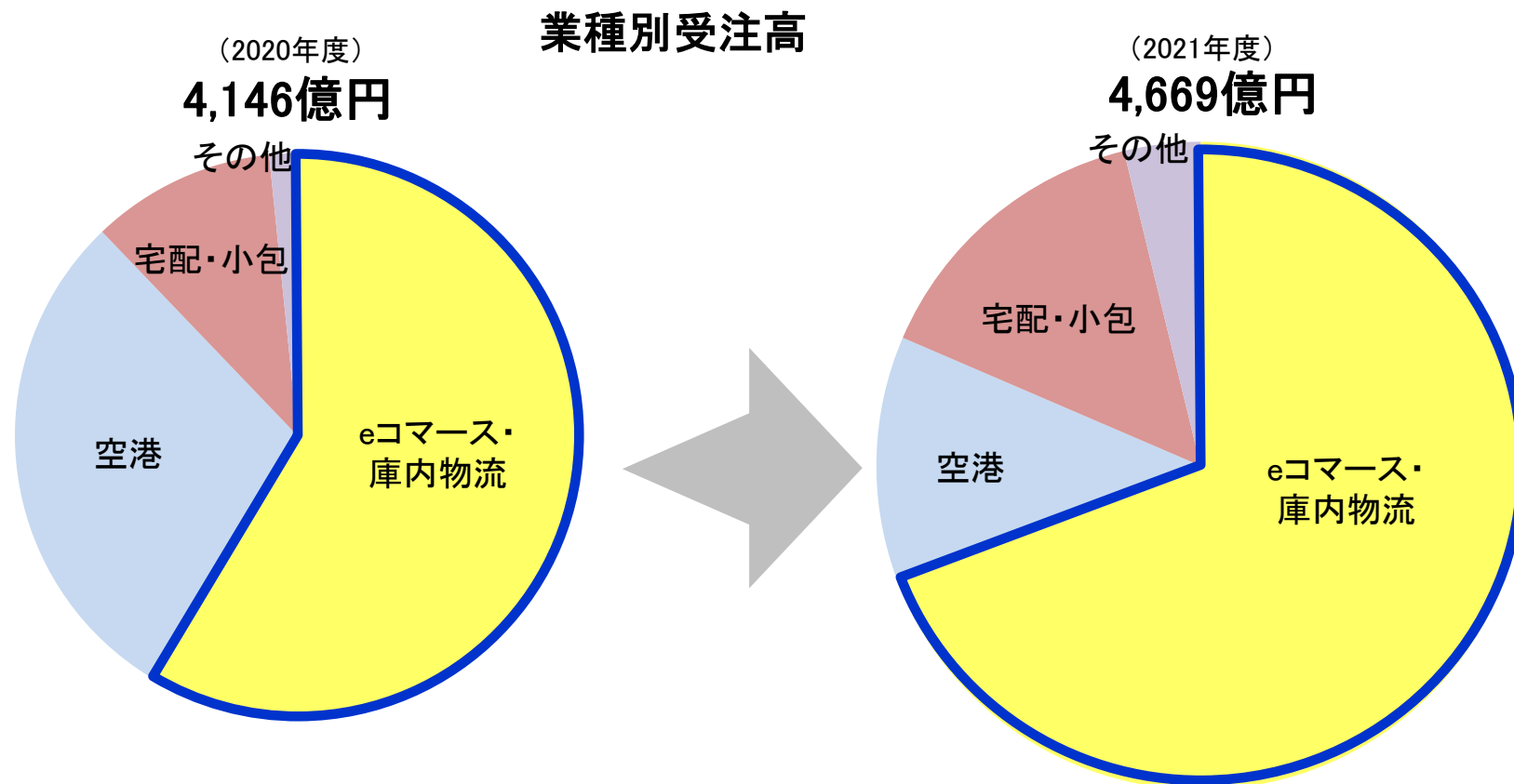
電動タイプへの置き換えや水素普及により、  
カーボンニュートラルに貢献

## 産業車両

### 5. 物流ソリューション事業の取り組み(1/2)

#### ■受注高の業種構成

- ・eコマースを中心に、アパレルや食品などの**庫内物流**が**伸張**
- ・コロナ禍での人流抑制に伴い**空港**は**減少**

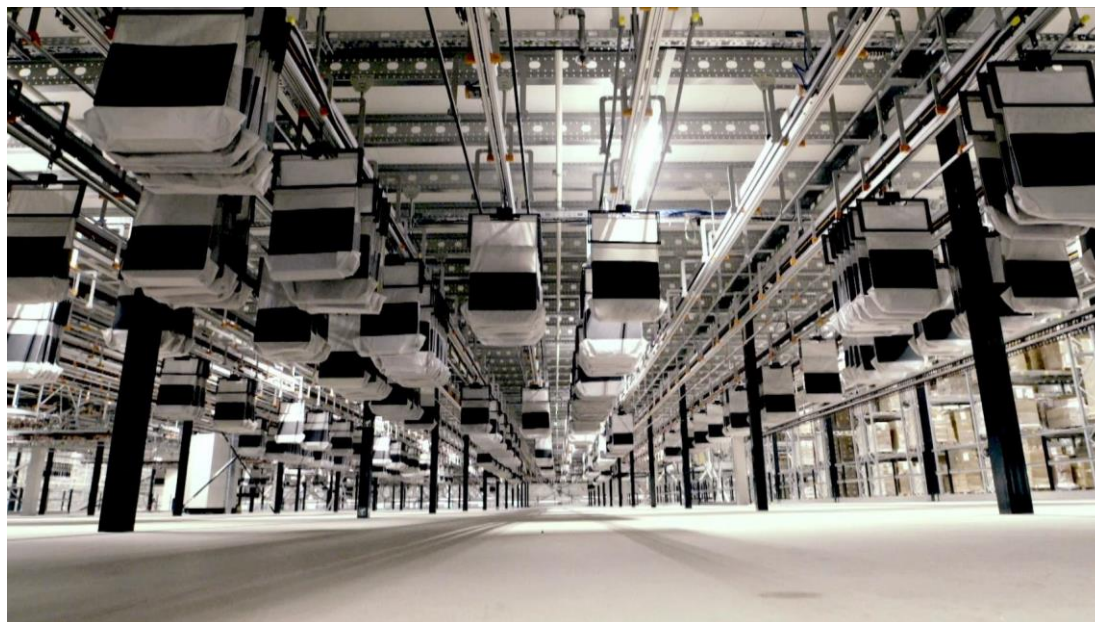




### 5. 物流ソリューション事業の取り組み(2/2)

#### ■当社とファンダランデ社の連携

- ・ファッション通販サイト「ZOZOTOWN」を運営する株式会社ZOZOが吊り下げ式高速仕分けシステム「Pocket Sorter」™を採用
- ・このシステムは、ファンダランデ社が開発したもので、最新の物流自動化システムとして高い評価を得ており、国内初導入



吊り下げ式高速仕分けシステム「Pocket Sorter」™

## 6. ドイツ・物流システムインテグレーターのviastore社を買収(1/4)

## ■viastore社 概要

1. 設立 : 1889年  
 2. 本社所在地 : ドイツ シュトゥットガルト  
 3. 従業員数 : 602名 (2021年末時点)  
 4. 株主 : Cetus GmbH(持株会社) 100%  
 5. 業態 : 物流システムインテグレーター  
 6. ソリューションラインナップ

## &lt;拠点情報&gt;

- 欧州 : 5か国、6拠点  
 ドイツ(2拠点)、スペイン、  
 フランス、チェコ、ロシア
  - アメリカ(含 メキシコ)、  
 ブラジル  
 各1拠点
- 本社 外観

■ 自社開発製品

■ 仕入品

工程	搬送	保管	ピッキング	ソフトウェア
製品	コンベヤ ・ AGV*1	自動倉庫	ロボット	WCS *2 ・ 在庫管理 システム

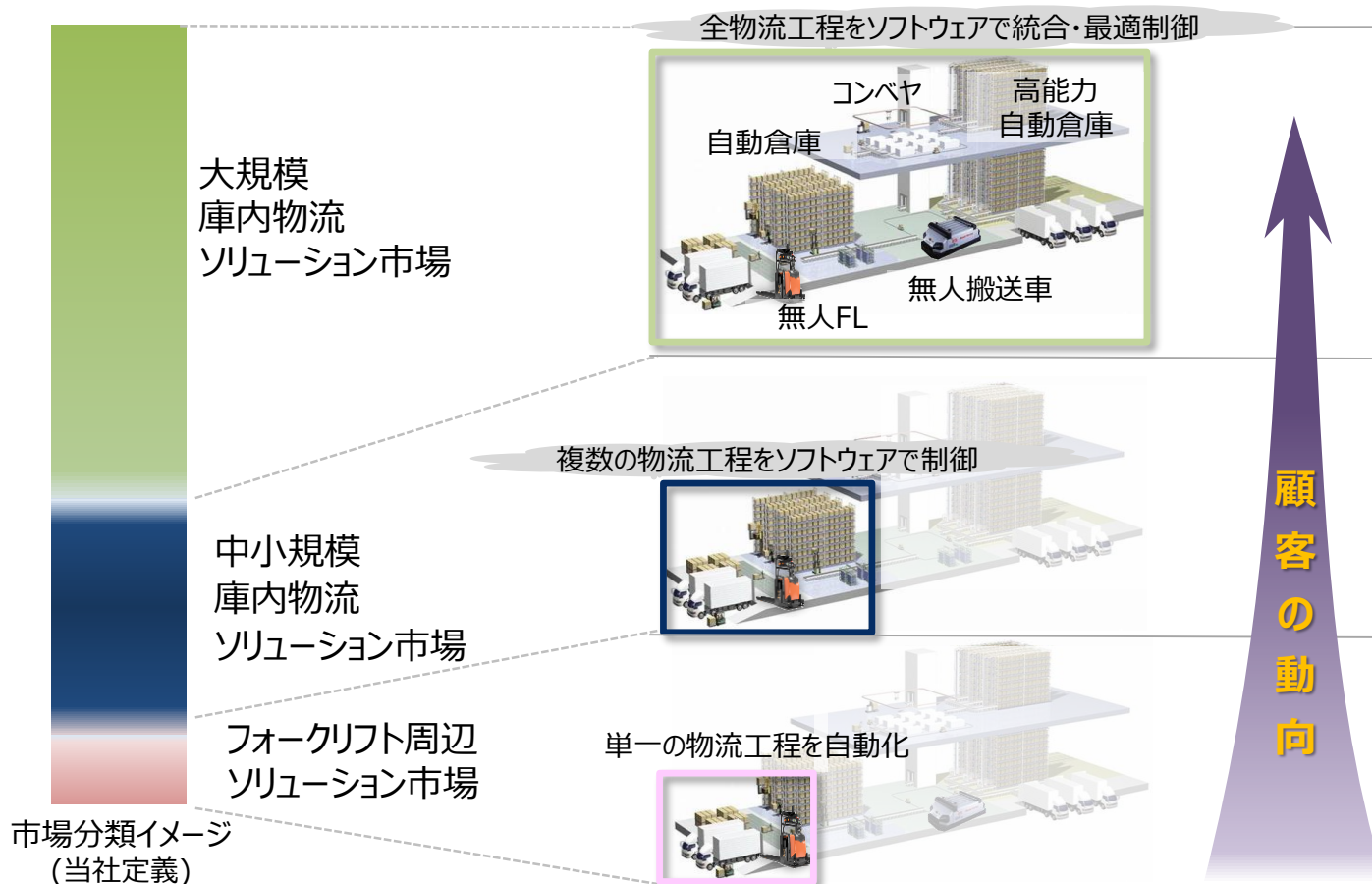
\*1: 無人搬送車 \*2: 機器制御システム



viastore社は**広い顧客基盤とソリューション提供力**を保有、欧州を中心に高評価

## 6. ドイツ・物流システムインテグレーターのviastore社を買収(2/4)

### ■ 庫内物流市場の分類



フォークリフト顧客の自動化ニーズへ対応するためのソリューション提供体制構築



## 6. ドイツ・物流システムインテグレーターのviastore社を買収(3/4)

## ■市場別ソリューション供給体制

国・地域	日本	北米	欧州
対象市場			
大規模庫内物流ソリューション			
中規模庫内物流ソリューション	(  +  )		
フォークリフト周辺ソリューション			

viastore社買収により主要市場でのソリューション提供体制を確立

## 6. ドイツ・物流システムインテグレーターのviastore社を買収(4/4)

### ■当社グループとのシナジー

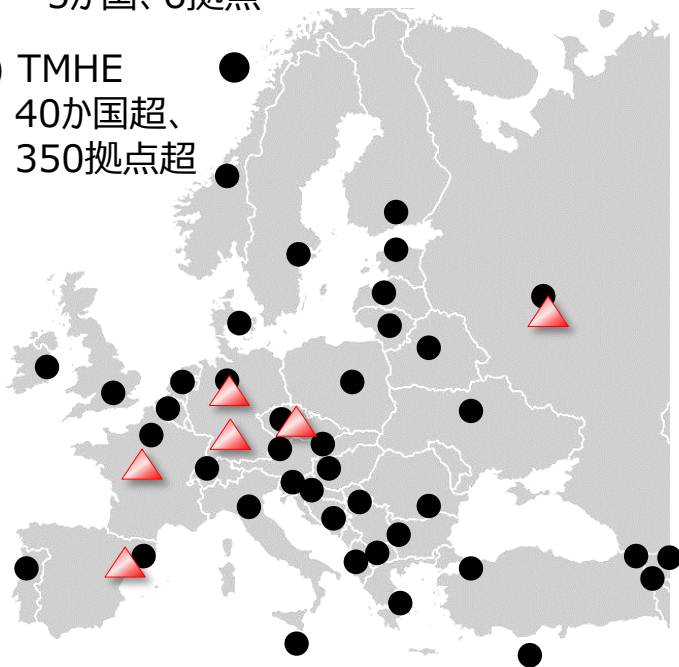
#### 1. TMHE\*との協業

\*: Toyota Material Handling Europe  
(欧州産業車両統括会社)

TMHEの幅広い販売・サービスネットワーク活用

1) viastore社 ▲  
5か国、6拠点

2) TMHE ●  
40か国超、  
350拠点超



#### 2. ファンダランデ社との相互商品供給

viastore 



バケット式  
自動倉庫



シャトル式  
自動倉庫



パレット式  
自動倉庫



ピッキング  
ロボット



**VANDERLANDE**

## Ⅱ. 事業の取り組み

産業車両

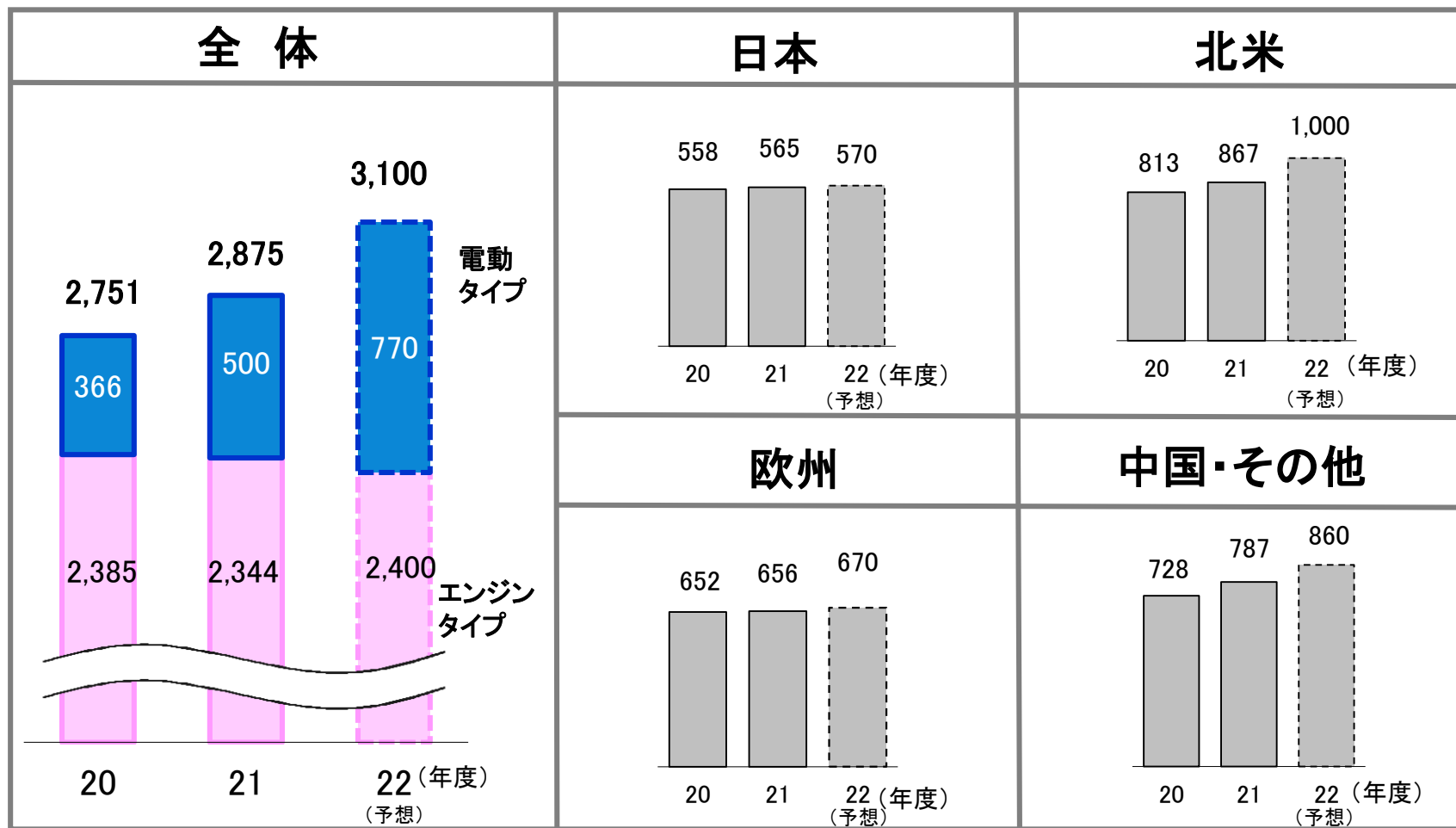
自動車関連

# コンプレッサー

## 1. 当社の販売台数見通し

- ・地政学リスクやインフレ懸念の拡大などにより不透明感が高まるものの2022年度は電動タイプを中心に増加

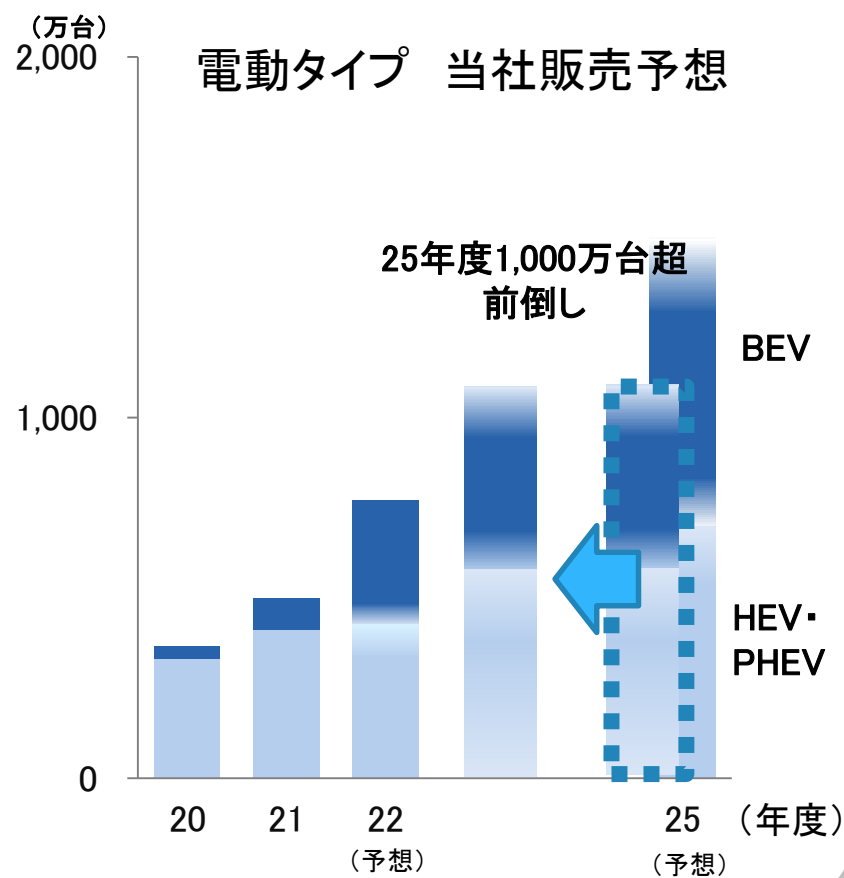
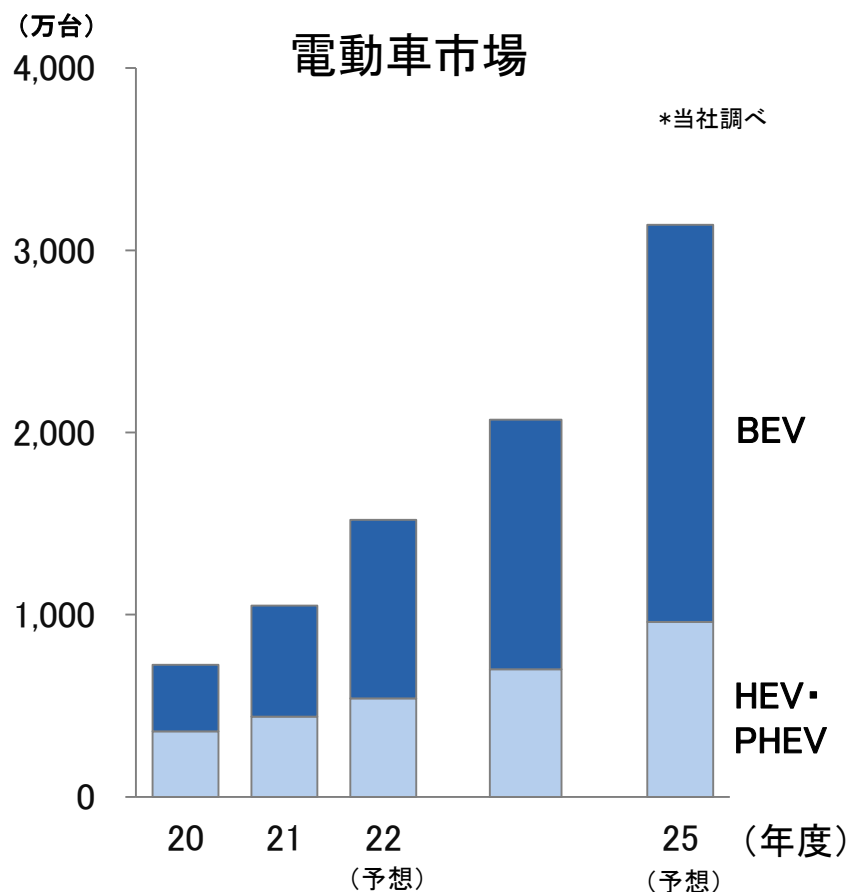
(単位:万台)



# コンプレッサー

## 2. 電動タイプの拡大

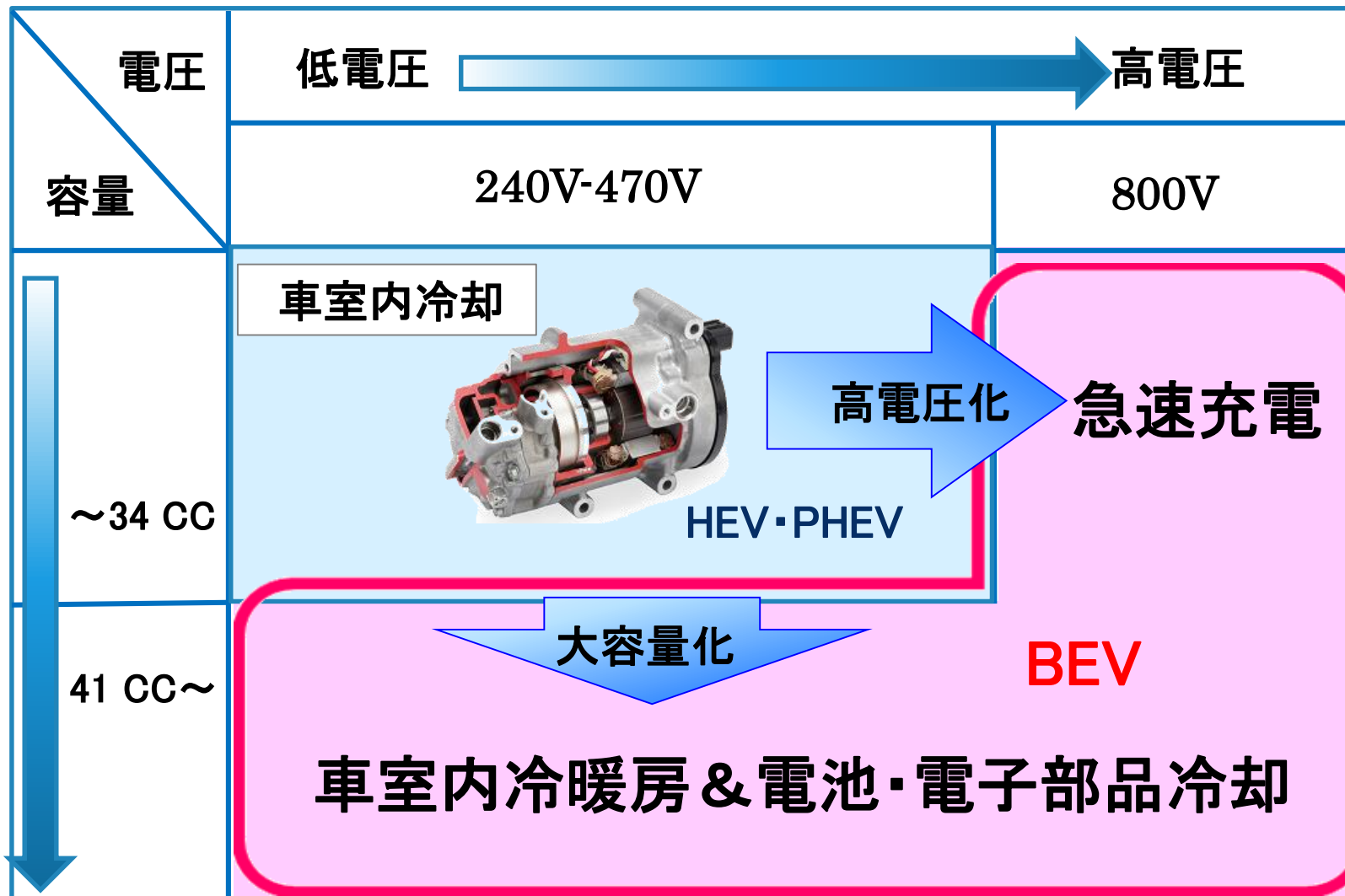
- ・カーボンニュートラル機運の高まり、各国環境規制強化などを受け、自動車メーカー各社が電動化シフトを加速
- ・高級車向けを中心に電動タイプを拡販



# コンプレッサー

## 3. 自動車メーカーの多様化するニーズと取り組み(1/3)

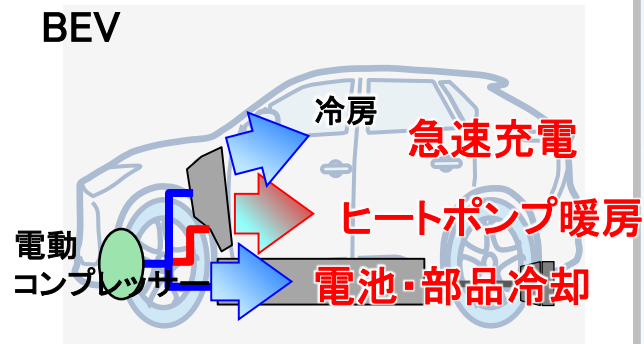
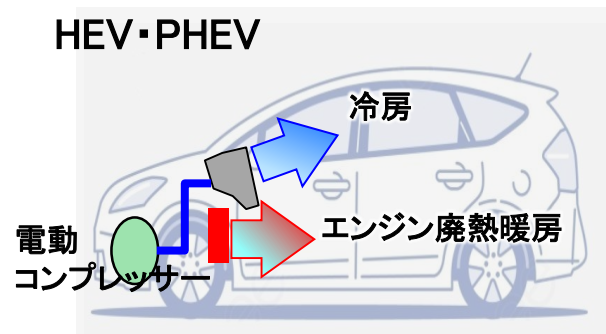
### ■ 電動コンプレッサーの高電圧化・大容量化への対応



# コンプレッサー

## 3. 自動車メーカーの多様化するニーズと取り組み(2/3)

### ■ 電動コンプレッサーの役割の拡大



### 自動車メーカーのニーズ

暖房への対応  
(稼働時間の長期化)

電池・部品の冷却

コンプレッサーの  
役割が  
暖房機能や機器  
冷却へも拡大

### 求められる技術

長時間稼働でも壊れない  
耐久性

電池・部品冷却、車室内空調  
を両立する技術

急速充電時の  
低電磁ノイズ化

## コンプレッサー

### 3. 自動車メーカーの多様化するニーズと取り組み(3/3)

#### ■ 当社の対応

BEV化で求められる技術	当社の強みを活かした対応
長時間稼動でも 壊れない 耐久性	競合に先駆けてBEV搭載で培った経験を活かし製品競争力を向上 ・シミュレーションによる迅速な構造最適化 ・独自の材料評価技術で部品の強度を向上
電池・部品冷却、 車室内空調を 両立する技術	大容量タイプを開発 ・容量増加と高速化により、冷房能力40%向上を実現
急速充電時の 低電磁ノイズ化	インバーターの性能向上による低電磁ノイズ化 ・幅広い要素技術を持つエレクトロニクス 事業部と連携し、特許技術で低電磁ノイズ化実現



# トヨタ新型BEV「bZ4X」を支える当社商品

トヨタ新型BEV「bZ4X」に搭載

ACインバーター



電動コンプレッサー



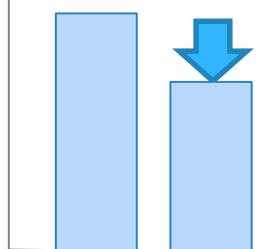
新開発



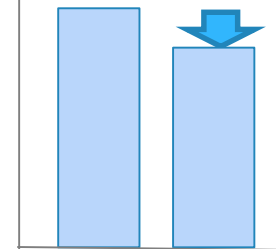
車載充電器・DC-DCコンバーター  
一体ユニット

一体化により小型化・軽量化を実現

23%小型化



17%軽量化



## 石浜工場に新ライン立ち上げ

- ・共和工場で新型アクアに搭載のバイポーラ型ニッケル水素電池を**生産開始**
- ・2022年度石浜工場に**新しい生産ライン**を立ち上げ  
搭載車種拡大へ対応



石浜工場(愛知県)

## トピックス

# テクノロジー オブ ザ イヤー2022 1位、2位を獲得 (出典: Motor Fan illustrated vol.186)



1st  
PRIZE

### トヨタ自動車 アクア搭載の バイポーラ型ニッケル水素電池



#### ● 専門家からいただいたコメント

「枯れた技術と思われたニッケル水素バッテリーをまだまだ進化させる道があったことに素直に感心した」

「長年実用化が検討されてきたバイポーラ型を製品化した点や、リチウムイオン電池への発展性を評価」

2nd  
PRIZE

### トヨタ自動車 ランドクルーザー搭載の 新型V6ディーゼルターボエンジン



#### ● 専門家からいただいたコメント

「排気をVバンクに搭載して、2ウェイツインターボ、PCCI ほかの新しい技術を総合的に投入して、ランドクルーザー用エンジンとしてまとめ上げた」

「世界の多くの自動車メーカーが電動化に突き進む中で、ICEにもまだ開発のリソースを投入するトヨタの強さを感じる」

# Ⅲ. 環境の取り組み

# 環境への取り組み

## 1. カーボンニュートラルに向けた取り組み(生産面)

### 基本的な考え方

#### 地道なCO2削減

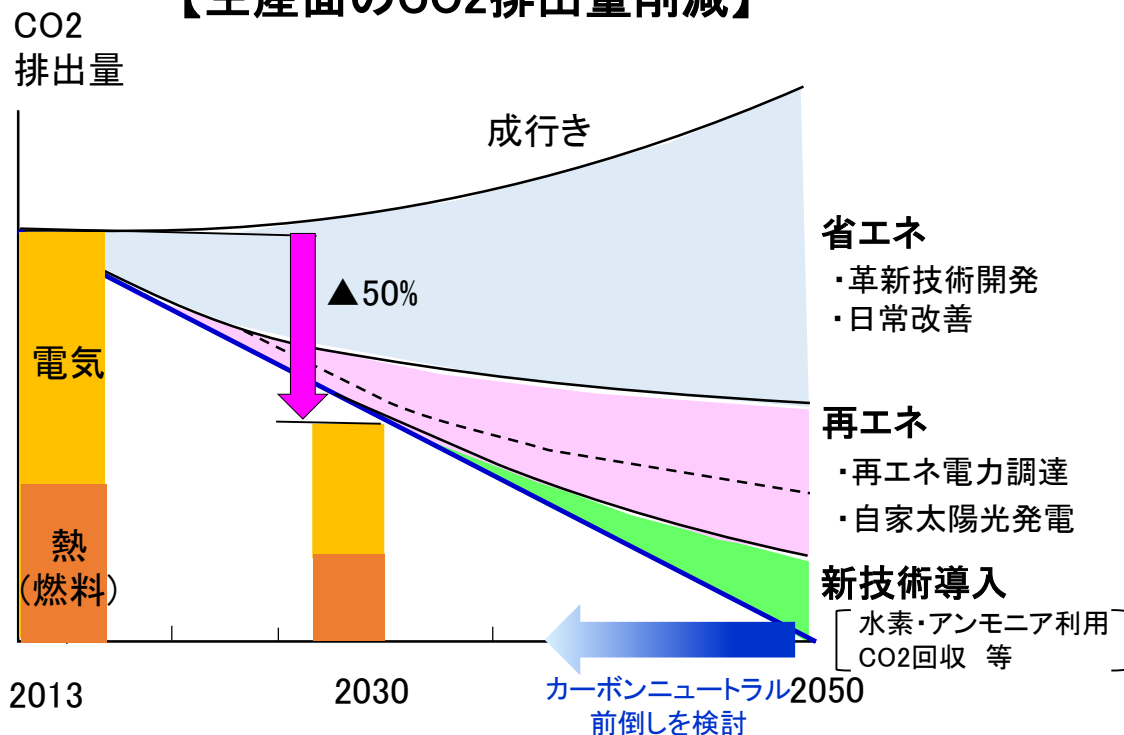
- 省エネルギー活動
- 自家太陽光発電
- 新技術導入

+

#### 補完的に

- 再エネ電力調達
- 再エネ証書購入  
などを実施

### 【生産面のCO2排出量削減】



省エネの徹底や再エネの活用等で、2030年半減の目途付け完了



# 環境への取り組み

## 1. カーボンニュートラルに向けた取り組み(生産面)

### 【再エネ】 活動事例

#### コンプレッサー工場 「再エネ熱利用空調システム」実証実験

(NEDO助成事業の一環)

年中安定した熱を得られる**地中熱**  
エネルギー変換効率が高い**太陽熱**

両方活用した**国内初のシステム**で  
空調のCO2排出量を削減



再エネ熱利用空調システム



太陽熱集熱器

**CO2排出量を従来比 約40%低減**

**実証で蓄積した知見をもとに再エネ利用を拡大**

# 環境への取り組み

## 1. カーボンニュートラルに向けた取り組み(製品面)

2030年度売上高に占める電動化商品の比率目標70%以上

### 産業車両

#### 【電動化への貢献】



電動トーイングトラクター

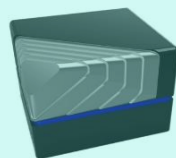


電動フォークリフト

#### 【水素社会構築への貢献】



燃料電池フォークリフト



FCモジュール

### 自動車関連



車載充電器



車載電池



電動コンプレッサー



FCEV用酸素供給  
エアコンプレッサー



FCEV用  
水素循環ポンプ

両事業を営む強みを活かし、ライフサイクルでCO2を削減

# 環境への取り組み

## 2. 生物多様性保全の取り組み

当社拠点の近隣を中心に活動を積極化

国内

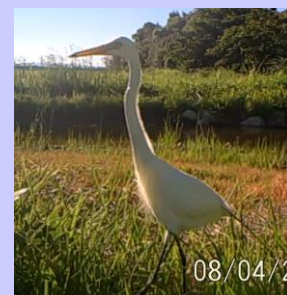
生物の生息空間創出  
ビオトープ



キツネの生息域拡大  
アニマルパス



鳥類希少種の保全  
バードピア



海外

植樹イベントへの参加  
(中国)



マングローブの植樹  
(インドネシア)



環境啓発活動での苗配布  
(ブラジル)



地域と連携した取り組みにより、生態系への影響を回復



## 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみ全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。